東方

五

歌仙

参られぬ犬のさきをひかれ　氷花
笠わりて白玉霜と煮る酒　春来
友達ふ紙をくゝ人出てゆく心　八十男
出の車をけ輪ずすり　秀億
暮のゝる月の舟の向ふ陸ゝす　畔水
供ゝとのつゝし　穐のゝ色く　男

[illegible] 信
[illegible] 水
輪[illegible]の谷[illegible]の道 男
[illegible] 信
世[illegible] 末
[illegible]人[illegible] 法華[illegible] 男
菊蓮の鈴[illegible]の月 男
[illegible]稲妻 同

[illegible]の[illegible]の秋の[illegible] 信
人[illegible] 末
[illegible]黒[illegible]樊[illegible] 男
[illegible]の衣[illegible]の袖 同
[illegible]の[illegible]の入日川 男
遥の[illegible]小便 信
[illegible]流[illegible] 同
[illegible]稲光[illegible]籠 男

敲くと和尚の扇子見れば　来
甲斐と神居を地の内の人　男
新しかりける思いとて寄かも　信
寒風に吹くとて先生　み
人生ふ恨きくける面白き　男
のくを大根の股よ又まる　信
月蝕よりも月もつきてまれ　来
和よりくく白川の吹く　日

山陰の巴ヶ小落る居　男
来ると咲めと色乃赤貝　日
一枝を豆乃南ヶ見る　み
二月ふ可ける拾ひ　来
ほめて櫻ふ元の色ほ親　信
寄ひくく蕗めくく　み

歌仙

神叔

春来

栽山

故一

友以

南花

ウ八釵ハ船ノ帆ノ刷毛ノ如

時雨の降曽根に宗見る　存義

日ゝ撫し鑄ける鎧の袖　栖延

駿ゝ苔ゝ　ゝ行　嘯山

九月蔦九月わけ袖の浦　春来

針鐘の月も風さゝ　友以

二つゝ乃順ふ物なる泉　南花

ゝゝ寺よし　桃吟　存義

堤ゝも貝殻ゝ見る道　栖延

腰の　ゝ　ゝ　ゝ　故一

代まふ岳　ゝ　ゝ　友以

ゝ　ゝ　ゝ　秋の　ゝ　春来

ナ世ゝ　ゝ　ゝ　扉ふ見る狐の皮　嘯山

頼馬ふ　ゝ　ゝ　松の下ふ　南花

洞穴ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　存義

百の余ふ　ゝ　ゝ　ゝ　栖延

山茶花は煙の遠くわむもの上　故一
小脇まてとゝく衣切の弟子　柳山
物みには影の仕立る帆かけ船　其来
平家のすゑ見えしすくなしや　存義
さし伏竹にさらりぬるく面白き　南花
二階し親は文をつけ月　故一
秋風の末見きつる祇園町　栢莚
露の葉ちらしはまの花く空　友以

ウ

咲くさく顔は飛脚のさく　其来
延齢丹の摘と嗅けし　栢莚
雨しし尾の紋作染けし　柳山
ひよとぬく宮や見台のお　友以
紅毛のわるの雨のさくよる花の鐘　南花
去年らしきとし大君の埃　存義

歌仙

梅の香いとなる君のうしろ髪　荒宝書

和田のけむりの月の春雨　春来

車の梅櫛咲く塀よ塗りあく　夏菴

たゝぬ炭よ風のうすら雨　雨静

高くとし風つ醒れ雑ものも　湄北

これの橋柱の青暁　青暁

ウ 河霧小間に行ての元わく宿 未
看經佛いと直きまもまも卯 菴
大小の目しも早く拭くまて 移
わまもの浮しめて赤子抱よけ 小
何の秋中御祓後の てうけ 曉
あけしと風くゆ行道刺 移
世くまと渡くぬきまと女うく 宿
馬籍の富士 秋橋 の富士 未

朝ほのかに行きあて目の朝敬き 小
沖と旦卯ふうつきあうう 宿
つけ蛙人のう注頭傳ひもの信 曉
方とりきもふ蛙のいつもと 小
日ゆくわうもまの玉川 移
宮の信くく徒まう宿 曉
くうくく科科の信中感まる 未
秋のつる愛小仏かくまと番 宿

[illegible]の路の雨　小
白[illegible]のまるる夏保　浮
[illegible]勝[illegible]ぬ[illegible]の脂　暁
[illegible]れ蟲の[illegible]舟　来
[illegible]て[illegible]　浮
[illegible]紀[illegible]の四扉　小
月の色[illegible]層の[illegible]　居
[illegible]の音　来

ウ
[illegible]の[illegible]　暁
草苅の子が鈍口いわり　居
[illegible]が[illegible]のわ[illegible]　来
[illegible]　暁
巻菓の下わ[illegible]細工　浮
二[illegible]の[illegible]　小

歌仙

このゆふべけぶる秋の幟　弘章子
馬さい酒ぬるきかりの月の弱　春來
實をとろむし猫の目のかがやき　米德子
そろそろ蓑とむ戸樋の竹の音　米仲
辨ずるとたのみ奉る肩車　來
きのふ新橋の新　德

かつきり堂蕪案の大くるしゆ嶋　仲
うち飛の脊中樹令ゑくなり　丰
屋額仿貴人の眼玉りしたゝ　德
鬢の形ちの如のい活鯉　仲
木くゝ行しの間屋りもゑ搖　丰
離別老人吠よりも先ゑ分　德
月雪の新もしろ柄長掛織　仲
撥音　うる暁の声　丰

令ゑ飛の蕪家のたくまれう　德
すゑれ新ゑ蕪ゑうゑの町　仲
我恋の沒ゑ見ゆる寺ごゑ　丰
てまちゆるぐゑ　德
うゑ神代の巻のゑ重ゑ　仲
公受日の京圓境なうゑ　丰
淀島より行の屋吹續ゑ　德
月卯のゆうゑ濁ゑ行ゑ　仲

何度の御[illegible]章ハ伸[illegible]ま
[illegible]ま[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]の頭徳
法き[illegible]て寺領二百の[illegible]殺件
一身ノ擄 在(カルタノ)骨得之耳(ニ)ま
自(カラ)ニ八一間一屋一八一幡(ニテ)而飛ノ徳
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]の羽嵐件
[illegible]ハ三五[illegible]の者ま
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ま

下(ウ)殺ハ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]の[illegible]葉徳
百十ノ[illegible]ハ[illegible]る翁ぽ、
一体の[illegible]ハ[illegible]ま
[illegible]の[illegible]の鐘ハ[illegible]件
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]の名徳
小鼓[illegible]車ま

歌仙

落葉ハ何ゝ時ゝ後ゝ

やゝ[illegible]の[illegible]て月のこゝろ　春来

雪ゆきの[illegible]れて　二調

朝ゝ[illegible]ゝ出　狀ゝ[illegible]　仙水

[illegible]ゝ[illegible]ハ冬枯の濡[illegible]　李山

何ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　初笠

宗阿奇
山夕

馬吉の屋の上のかうつき　買明
仙法僧の氣よ入の海く　渭北
見と答の鳥緒風青う　春原
錦屋の裏一舟繋き拾　二潤
沖の屋根天の橋も無つまて　春来
そらゆるか揮燒の煙　雪山
供の親もそうしの白の白扇子　渭小
買物の帰りの賣　初皇

そ中の嵐衣のまゝ扇　仙水
都の辰巳の氣さ　賀明
居風呂のかの花の陽炎　春原
里の春さきく皇角　春来
いのちかく法の末の大鯛　潤
弓取なのしの毋よう　仙水
ちくの島いかうの十寸鏡　雪山
万字の紋も妙理の横　春原

三蓑時雨の中　初雪
もの〻ふ八幡式日よ　潤小
寄れし人の非人かな　冨岡
わかうゑの餅つき　二調
病い犬うち西蓮寺叶ず　春来
富へ徳く寺の花石　雪山
冥加ふみ[illegible]の月　仙角
忠徳よ[illegible]の霜　鳥原

ウ
清真殿の謡よ迎鶴の声　雪山
掬すれうちの行よ篠掛　二調
正直の杖の寄き貧乏　潤小
打つき見ゆる二つの酒　初雪
まる人も負へ似うる花の宿　冨岡
雪よ降り麦の満気　仙角

寄仙

更衣つゝ織ぬ羽衣　園女

ゝゝと鶯の音の知れる味　春来

宿ゝの数のもゝゝひゝく　墨成

ゝゝ橋ゝゝ縄のゝゝゝ　再賀

額ゝゝゝ月の男成　東林

いゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　万字

ウ
しら露とは狡し　永人　五晋
あるうもの也ふ鼓のうち小末　成
鉢持ふれとうしの多数　賀
ひうを捧種の信うう小便　末
俗ひふもうも伝れうまに　字
酔ふ浄所の出りてやうう　林
うとふう〳〵限うう八百万　書
大めとくの月宮の戸ふ　字

徳と泪とうとうとうの山　成
亀のと氣のうう　林
花と今仁王の網ふ散うう　賀
ひうう小四のうう紀　晋
ナ
大寿や笠ふ笠有る去の風　末
四楽の大の見ぬ日常　賀
うう神うう藤やう遠　林
御息所の蛇とくぐう　末

寂寞として人なし　字
礫々たる木葉と化れる毒　晋
ゆく君を送りつゝ墓の前　末
吹まくるまゝに落つる夜　林
うらゝ橋舟のゆきかよひ　成
見えぬ人を呼ぶ川ぞひ　末
ゆく春の暁月の影の園　晋
近くしてなほけし寒い麻畑　賀

ひなの山家の秋かめくらまぬ　成
小さい家の人の晴の起　林
暮雲を風に吹かれて富士彼方　末
朝日影のうつるまゝの湯　字
遠山に夜の秋の花のうつり　晋
つゆ霜の栽の水ぬるまる　丸集

歌仙

ふる雪のうち絶えぬれば松風の　周竹
宿めづらしく毛虫下るる日　春來
橋を問ふ人ゆき捨てし　芝光
今宵もまた火の煙立つ
待つ人の見ぬ面とまた
夫とまつ人もあり

ウ 繋まれ行つゝ為の秋の縄 光
とい朝鮮よりけいどうが入 ま
大仏の奉れ所へ一つの 光
盥の中へ移しつける糊 ま
帋をつゝまて玄沱も女字 光
蔦西太郎やゝ後の朝飯 ま
昇る月の光りのさの植木松 光
鳥も礫もあらの果まゝ ま

ゝちといふ年も順の奉陳き 光
ものの上へ明けて行蕎麦 ま
瓦師の腰ゝさむる角 光
ナ 子くまかわふうの長 ま
鳥と落と薩摩の鶏の贄ゝ
わゝと娘の仕方ゝ 光
いひくさのけ高き葉形と神けく ま
雪掻くゝ西の中る 光

[illegible] 袖[illegible]れ出る [illegible] 末

[illegible]の [illegible] 小刀 光

傘ハ [illegible] 頃 [illegible] 末

山吸 [illegible] 偉 [illegible] 光

負 [illegible] 裸 [illegible] 末

梅澤山 [illegible] 光

[illegible] 月 [illegible] 末

長日の [illegible] 雑巾 光

ウ

[illegible] 紀堂 光

酢 [illegible] 寒の [illegible] 末

温 [illegible] 病 光

[illegible] 別 [illegible] 猫 光

君代の [illegible] 所 [illegible] 末

[illegible] 調 [illegible]

歌僊

白雲に指ゝまとふる空津の山　蕭山

美濃ゝてふゝ駕の月　春來

世間ゝふ行稲漬のあるく　太淵

わすれのこゝふ行よ雑巾　帶路

山茶花の長らふ日も二三日　百潭

汐ゝまりゝて船ふ人なし　翠峨

ウ
ちとせふる跡ばかりの清水かな　存義
あるじは誰とかれかの時雨　閑
逢ひ見ずと有るに代もあらぬ宿　来
地蔵の年も積りぬる池の澤
雲ぬきるるとも見しぬ屋か雲の松　路
唯一すじの川船の錨　来
酒嗅い臭を流るる笑ひ　峨
わるぬ程をさくれ蛙の　義

十
岡おろしとやらんよろこぶ藤　澤
きのふの見くらべ蛙の形あり　峨
月日星鳥獣の家ふけ向くも　路
うきやすみのりのいりめの新入　閑
藤波を行虻馬軒の回るを　来
朱の鳥居乃糸陽を解く　義
病わりうれつまうんあり　閑
偉るのうしろ鈴時の新　路

提の花よ霞の気い眼を張る道　峨
まつ孤の鎌ウ底を切る　澤
雪屋よ春ふ雪ふる珍行を　義
馬の嘶を井戸りおす　例
南東ふ稀ウ毛を吹く風の月　澤
うき鎌倉の御所柿の分ふ　丈
人と寄る硯ウ行き合ふ時色　路
物ふふ南宮ゆ　峨

ウ

月ふふ人ふの色　長服物　丈
窓を下屋ふ定餅を焼く　澤
雑ふふ伝信ふ　峨
ふふ屋ふる始ウ多く　路
ひる花ふふ宮屋の隅　義
野ふ更ふふ牧第ふ　華

仙

月の花女のごとく見えて小町鳴　岩城紫塵

枯れて高の花のもつれき　春来

盛れつく猿の紅葉の色さびて　葉也

時雨ゆゑのあるかなしさ　百庵

うち寒の醸す煙のまぶすり　紅雲

吟じてこそ仙又古き待を慰む　百太

竹の風一すじ殺の風　笑伴
浴の小笠と大佛の歌　也
ま〳〵恋と関の石ころあけて　ま
無の入り口ふ鐘製くや　雲
りつつふ植木の出つるこれ　庵
垂門様のおか様　ま
りわらし返魂丹を仕う　太
ろ〳〵ろ〳〵ろ猫の手山　伴

我れ西さらかふこゝを蔭くし　也
踏つゝる花のあるうて　太
塔色つゝまる月の暮遅き　雲
うつの漕けいるゝ物の　庵
なしゝ所を風島の落る　ま
つゝけ神を答る　也
ぐ〳〵星の所の打の眠るゝ　伴
ま状の相と投れ先ヶ觸　雲

[illegible]氏法のうち鶏籠 太
法合谷のうち 洋宮 伴
[illegible]申待の雨乃戸 庵
[illegible]ぬ[illegible]板 ま
[illegible]見[illegible]の丸 也
銅[illegible]船乃 住吉 太
宮[illegible]月の初[illegible]給 伴
[illegible]の戸[illegible]嵐[illegible] 雲

ウ
今村の青き[illegible]お蝦の[illegible] 太
二本道昊の[illegible] 居
杖の[illegible] 雲
[illegible]備先る鎌乃柄 也
[illegible]の朝鈴 庵
元日十日[illegible] 伴

題摂泉寺

大寺の四門ふきもみぢ　序令

物ふるし四方の雲ぬるよ　春来

見てあかぬふかき松陰くるるん　麥天

寺を移せの月探るけり　青郊

鶯の餌の種にこぼる　渭北

ふるふ小倍の朝ぬる秋の色　天

高つこふのうきも毛唐人　末
白みるうの海の中川　小
主南ふの屋舗境のすき樽　郊
春うめとところ世るまきるのき　末
ふつもふ花ほ脱いれまみうう　天
酔のう酔くりとる酒会　郊
まくく吟おいもまきるのう　小
輪寂ありまふ八ゆう貝の紋　末

年代が月と蕪の朝まうき　天
菜いつとみきくまれ紅葉　小
わる時いまの和歌胡蝶の花　郊
えつめるが梅花のきふ　末
新しい梅月匂ひくこうう　小
川くこ屋ら馬の嘶　天
いくふ東鎧の力くきぢ　末
鐘とるまるよみうらの枝　郊

思ひきるんうたけ火うたけて　天
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]　小
鍋釜も魚ふのまゝ　江浦船　郊
[illegible]　来
盲子のやくそくを[illegible]　小
高田うしろ日のくれる風　天
そうふいと霜枯の月と寄ゝ　来
[illegible]る鐘の音　郊

ウ
所住いと物のまをわるる仏　天
這留中うちをいのれ地　小
屋ゝの掉い右さ左さ　郊
遺跡まる日い味噌つまほよ　天
[illegible]ふ芋[illegible]ゝ[illegible]挟箱　小
うのくのかうらうのうら　来

歌仙

初雪や今宵硯をあたゝめし給　岩翁

佛前はしほりて紫火なりけり　春来

屋根越に強く風の篠は納りて　洞什

腮掛てやるくゝく子也　雅光

情し茶に黄昏月も白かりし　釆仲

土も雫まくらくつまゝ草　執筆

ウ
六里ふ宮見ゆるの菓のうち帆　光
美しんのうしれるら盤　什
勝手のうるふハりまゝ娘婿か所　未
迄行きりれふ何のそともいう　仲
流さまする捨さまけるう紀川　什
松うるふまうてく仰ふ天文　、
極うけの宮しいふハ兀てうう　光
秋のと紙うて屁ふ青まかし　未

助太刀をとゝのひ身なくり捨　仲
天晴御馬花のかけうけ　、
燈籠しくハうろ秋のるまゝ蔓　未
善録を裁つ母の曲尺合　什
ナ
仕立ふ附胡座うせ兵看臺　仲
古白是庭のうつきゆきとしと　光
瓶つゝ淋乃伯父もよしとやく　什
先ふとの葉を添る瑞雛　未

みなもとふかき車の見紙　光
打ちしの又和の長どり　仲
部屋戸　又かゝるさくらの花、
體の首のあをと飲んと　ま
天地を底かゝ呵るものかな、
くゝとれぬ晴明の紋　光
ちゝ母ちゝ長かるあをさき　什
実と雪ちゝの老母草一様　仲

ウ
錦しの遷宮年をこゆまつる　ま
さゝるちゝをのゝ秋　什
中倉ふもとゝ花ほるむ、
風のゝまるゝ浦のゝ貝　光
ちゝ母ちゝ花ちゝ、
又ちゝ夜のゝ月ちゝめ　ま

歌仙

出度の右の隙の山さくら　午寂
ちる雫かしつつ谷の林　春來
ふる雪を一重の愛ぞ重なれて　金升
夫婦つゝ添くゝかりる縞　故一
月ぬ音のめぬ人のめぬ　禾仲
年ゆわゝくゝくゝの虫　升

ワ

剃れのこし屏追て芋畑　ま

豈そうち乙のさ潤る菱の世　件

廿行し名所に寐けのくう　一

朧々きしはしく月見まれ　ま

濱風の一ノ鳥居二ノ鳥居　升

ちしほの讃の折りと白やあ　一

尺八のうしろ定まる風もち　件

赤子の名をつくまか帖付く　升

改元のわぬる　崑崙坊　ま

細戸に月のもるまゝ迄て入　一

華表の枝目印に肩に付て　件

大会仏の倉のきうり　ま

ナ

浪費の海土宮迩く斗る也　升

ら同仏と周い宿とし　件

白雨に何見る若る沙総　一

不孝な人は流るもの　升

源氏ゆみの原氏ゆかりとて　ま
地震の中ゆめるまつき　一
りつのうゆ寺ゆ成る漆　仲
陣屋の煙ゆ　ま
嘉祐四年ゆ　外
常盤ゆ　仲
ゆ科ゆ　一
ゆ科ゆ　一

ウ
みすゆ　ま
泉ゆ　外
きゆ　仲
湯ゆ　ま
所ゆ　ま
日向ゆ　一
薗ゆ　仲

奇仙

鶯の屋根葺くゆゑに紫宸殿　貞佐

後ろ焼すてしく煙れる苺山　春来

うぐいすの鳴くや川音の可容

連くまれの平砂

移さの嶺もあらぬ親鳥　末

ひつくらの馬のくれる岩容

毒の中をいとふ清貴の羊頭巾仏
狸の弥陀いわれまま
多飢を愚かに見ゆる地獄宮
年々雪を海馬ま仏
何果て咲くうを奥相撲ま
東の中ゆく鉢の子の行宮
人ふ毒知ら風仙尼仏
泊まけてうを月の中川ま

時を待く年宮
居て呼れ人仏
宗鑑ふ撲ふ車の貧て ま
憎くも蜂のみうまる声宮
四の現沃の田螺も好ふ ま
汁流まふ皆勝ま作く仏
番稽細をむんを釘一子宮
汁安鳴の頸吟て共 ま

[illegible]ふ白樂天をうらむる　仙
狀箱ゆき[illegible]裏のみとろ　客
かくまき[illegible]塔[illegible]松のこゑ　ま
ゆまの光うらくすゝ　死　仙
[illegible]雨[illegible]老ぬまく　客
[illegible]よつまつ白[illegible]梅のまね　ま
月[illegible]待[illegible]ゆかう　仙
起[illegible]ふ簾の[illegible]　客

ウ
[illegible]の[illegible]屋[illegible]　ま
未[illegible][illegible]　仙
[illegible]日ふ[illegible]　客
[illegible]解[illegible]　ま
[illegible]瓶ふ[illegible]　仙
[illegible]仕[illegible]春の[illegible]　客

駿河なる[illegible]かくて秋もなる
[illegible]る月日もすぎて
江都なるのしまちの
日[illegible]
くくと[illegible]
道の行くすゑ酒くみ

[illegible]
色の色かの[illegible]
紅葉をまづ駿河の名産
[illegible]屋根へ[illegible]月　春来
取[illegible]破[illegible]　蝦定子
錫の[illegible]奥の錫[illegible]　茅仲
[illegible]海道さいの[illegible]解て　社嵐
[illegible]　桃灯　執筆

玉玉子

錦金ウ
宙字を宙てうけ取 嵐
腸の地獄 件
西方教主五仏次 来
食傷ふくやまと醫者の義 宗
つす降 雪の 樣 来 件
吉河の吉 八見 地獄 嵐
月 の峯 宗

強力 名持
初音の 小竹山 来
吸僧 蝶 嵐
丈 編の殺入 件
ナ 嵐のかなまま 宗
門徒 三 嵐
迎禮 地獄 件
魯 来

曹祖母いと棚のかるるくるくゝ
板橋の灯をとるつるもの宝
ゆゆしかるまきなるつ又濱成仲
ゆゆしくとくの和をとる飲ム
寺侵をかるる樹なるまる嵐
ゆゆしかるまきなる舟のもふ國一番く宝
宵くの月のかるる当つるる
銅豊なるくゝ冷し

ウ
登くゝ秋海堂のうすく雫下 嵐
法親王へのてる 利刀 仲
赤くかりくるるる臑脚 宝
眼をいるるまるまるの養 嵐
元遥をうけゆく奥の花車 仲
侍しかるのきるふく ま

加世舞

春雨のなごりいとゝ油貝　堤亭

入江の岡よりも梅ぞさく　春来

まゝ暮ぬ三里の程を爰路まて　故一

尖めいてゆる人もゝとゝ　来

懐る月の新き節待の糸車　一

賞ふゝとゝとゝの角ト　来

ウ　おなじいなかの舟のやぐらへに　ま
入相晴まてく一日いとワ　一
已ゝ石の武まふまのひく出師の伏、
をををを一てゝ庫裏の鉞　ま
あのあるゝ所の小鳴の西殿ゝ、
出肥ゝ行月のゝゝ十月　一
燭燭のゝゝゝ　ま
湯坂離の就のゝゝ　一

あをゝゝて出ゝゝの墨ゝ　ま
ゝけれ所ゝ　一
月の朝餉遅ゝ　ま
生まゝの谷のゝゝ　一
ナ　神乞の神のゝ
ゝゝゝれの戸ゝ　ま
庁山れ乞邪ゝ　一
鐙のあゝ燼（ソキ）　ま

竹用いりて世帯ふとつる也　一
幕ふゆるくけて世帯ふる　ま
竹富中の雪ふりたの上へ塗　一
数賣の肩のきりて地のい、
起くれば裸くて心日の鳥　ま
風月ゆんの皮の単殿ちいき　一
逆茂木の間ばちの梅の葉　ま
礫ちもちるる石梨子　一

ウ
瓦物ふる溝ゆ雪ひのうるとなこ　ま
碑の建ところ張ふるる、
貫ふる業火品まる牛屋の火　一
赤貝ハけまるとくる心生甲愛、
探ちる顔ハ花の打く表　ま
初りかもちる何ちとも即、

歌仙

紅梅や徐馬い百紀老夫婦　才牛

賽ゝゝの毎事　春來

其の月ゝ十五同乃橋縄ゝゝ　栢莚

嘶ゝゝ見ゝい家の程い人　同

ゝゝ中行植ゝすゝ　來

ゝの紀ゝふ紀ゝ飯も除ゝ　同

ウ 遺教経ハ諸仏ノ秘蔵ナリ 遊
楓ノ花ハ紅葉ノ傘 ま
立ラハ物量ラハ宵闇 遊
男仲ノ子ハ桐壺ノ光 ま
ナラハ春ハ遠ク初昆布 遊
ナラトヲモフ清章ノ里 ま
鐘ノ銘ハ一字ヲ聞ケハ 同
鶴ノ口ハ物ヲ言ハ箱 遊

寒月ノ下ニ揺ラフハ河 ま
見ヒ入ル如ク鼻ノ雷 遊
酔醒ノ中ニ春ヲ知ル香 同
ハ知ルモノカラ風ノ帆ヲ ま
十 ナラヌ存ル常ノ春 同
ナラヌ顔ト踏ム通ル白人 遊
注あらし顔の氏神三ケの津 ま
万言万当不如一黙 遊

[illegible]
月もさめうの井の屋の[illegible] 遊
嗅て見んと[illegible]墨の[illegible] 同
小を[illegible]の[illegible]の灸 末
赤の飯[illegible]て[illegible]塗[illegible] 遊
町[illegible]て風の森 末
藻[illegible]の[illegible]の[illegible]の目 遊
義[illegible]角力[illegible] 同

ウ
[illegible]の口の形 末
又一盞 酒の[illegible] 同
狭[illegible]流[illegible]帆 遊
花の高根[illegible] 末
さ[illegible]の[illegible]の[illegible] 同
[illegible]の[illegible] 遊

青仙

蚶潟
明望

能花さくころの心地かな　一蜂

春雨の後の身の表　春来

つくつくの蝶うつくしき　閑左

夏となりぬ遠のうん　南花

つゝ朕の一朕　拔ぬく猴の目　友以

拔いくなる秋の風　采仲

朝ウ方の指図してあるのを　花
鉢ゝ湾ゝ湾の裏町　左
ゝゝ洗ゝ女房お見駄とゝゝ　ま
爰ゝゝゝの奥の引町　仲
霜ゝゝの加茂山樹ゝゝゝ　以
音ゝゝ掃ゝゝ拝領の茅宮　花
四斗樽の酒さゝ寺弁を吸ゝ　左
ゝの朝夫ゝゝゝゝゝ　以

わゝゝゝ猫ゝ嘗のつゝ坂　仲
出暮ゝ雨のゝゝ月も後　ま
月の宵するゝゝ踊りの風　左
いゝもやゝしのゝ寿色なり　以
数のゝの武い九曜　三つ巴　ま
朝ゝの駕ゝゝゝ　桃灯　仲
仲ゝゝのゝゝ辰ゝ屋の関　花
神ゝゝわゝゝ長ゝ　左

夏の日やおかけうつる内のまの紋　仲
やまかけと落る元船の庵　来
えんくらうしか九ぞ名ぞ嘶く　以
わけくらハ犬も寒さ白妙　花
また菜の切やもなうろう　左
行山里の脊中うし月　仲
木兎の眼鏡かけるる梟なれら　来
活らく又死ぬ勧書の秋　左

傘と五重の塔の下雫　以
入日くめげるへまとろく　花
つゝ俳の融ハ何と噪やらん　仲
業しふ陶まれ椿いやしき　以
太儀ともえ抱いまれ車力尤　花
こふ寄しる家をわまし　の
執筆

寄仙

枝もなく葉もなく涼しく石乃雨　無倫

行きてまた行きて岡の嶺　春来

うゝ茅屋の酒屋もとめよ　敬亭

接うゝ吸むと唇乃糸　渭北

枕灯て旅乃人ゝ月山　末

馬もとし生のさとを追ふ　亭

こ[illegible]る[illegible]と[illegible]る[illegible]桂の梅のき　小
行年書のらづくと　おま　ま
のつ[illegible]ぬ[illegible]房よのうて　亭
伊達の[illegible]のくる温泉の山　小
[illegible]や[illegible]の三すとづつと　ま
宿世いかる月くる道ん　亭
[illegible]ぬ宮の敷小路　小
志のくやらふ金沢の鶏　ま

[illegible]病れ煙見くる[illegible]る[illegible]取　亭
分[illegible]の[illegible]の[illegible]老の[illegible]　小
[illegible]ぶくる馬の口　ま
[illegible]の敷を[illegible]見る[illegible]　亭
病人の[illegible]日[illegible]る明く　小
[illegible]住[illegible]の音　ま
牛の[illegible]風[illegible]る　亭
一味[illegible]る行[illegible]　小

うちわたしたる枝葉まで
れいの中ゝ石山の寺
の景色と経ゝて儀ゝ崖に
松へいまれ穂の腸まで
西の方流ゝまる池の上に
行燈の針の下の細の間に
ゝよ若葉なるゝ夜の殿まで
れの雪ゝ雪の鐘響格ゝ

屏風台の蓋の上にかゝれほか亭
の装ゝ飾ゝのてる穂のがゝく
千日ゝ梅雨ゝ回ゝ山ゝ小
ゝ山ゝ月ゝ飯ゝ晩ゝ作ゝ也
現ゝる花の鏡ゝのすほま
ゝちゝとゝくゝの入ゝ行ゝ山ゝる